

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4271600639
法人名	有限会社 あすなる
事業所名	有限会社 あすなる グループホーム まごころ
所在地 (電話番号)	長崎県五島市富江町職人307-2 (電話) 0959-75-3111

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 19年 10月 4日	評価確定日	平成 19年 11月 1日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	13 人	常勤 7人, 非常勤 6人, 常勤換算	10.8人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨平屋 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 歳	最低	65 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人財団健友会五島ふれあい診療所、近藤歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

毎日2ユニット合同で体操を行っている居間はかなり広めで、大型の歩行器を使用されている入居者も複数おられるが、自身で操りながら自由に移動されており、それらが心身機能の維持・向上に効果を表しているのか、平成16年の開設当初から大きな体調変化もなくホームでの生活を継続されている方もおられ、車いす使用で入居され現在杖歩行まで改善された方もおられる。食事作りや掃除・畑仕事など、入居者それぞれにホーム活動に参加いただいているが、他入居者が使われる歩行器等を寄せたり、座る時に椅子を引いたり、焼肉の時に焼けた肉を皿に取る等、入居者同士の助け合いも日常的にみられるとのこと。入居者の希望に応じて、自宅、行きつけの店(美容院・洋品店等)、親族の家等にお連れしたり、年末に特定の酒屋で買い物をするという習慣を継続していただいたり、入居者に対して“地域密着型”を実践している他、地域の祭りの時に御輿にホームに寄ってもらい、近隣の方も招いて“振る舞い”をしたり、地域の昼間独居の方に、日中、ホームに遊びに来ていただく働きかけをする等、地域の方に対しても“地域密着型サービス”の実践に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	①「個別具体的な介護計画」については、ホーム独自で情報収集用紙を作成し、入居者の希望を聴取し、介護計画に活かすようにしている。②「市町村との連携」については、既に運営推進会議を5回開催しており、その中で、防災訓練時の協力等を市に対して行うとともに、ホーム側からの情報提供・相談等を行っている。
重点項目	① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	「自己評価票」を全職員に配布しそれぞれに記入してもらった後、各ユニットで話し合いをもって1つにまとめ、更に2ユニット合同でミーティングを開き、確認を合った。職員からは、新項目になったこともあり、各項目の意味について質問があがり、今後ホームが求められていく方向性を考えるとともに、自らのケアを見直す場として活用できたとのこと。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の他グループホームと交流を行ってはどうかとの意見に基づき、他法人のグループホームと合同で花見大会を行った。また、家族から「日時を教えてもらえれば避難訓練のお手伝いに来ます」とおっしゃっていただいたので、次回の訓練時には案内させていただく予定にしている。
重点項目	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ほぼ全家族に対し、毎月、日々の記録を持参して自宅訪問をし、暮らしぶりや健康状態をお話し、意見や要望をお聞きしている。いろいろな家族から意見をお聞きできるよう、運営推進会議の“家族代表”の委員を固定化せず、開催毎に全家族にお知らせし、ご都合のいい方にご参加いただくようにしている。これまで家族から苦情等をいただいたことはないが、ホームに言いにくいことがあるのではとの思いから、目安箱を設置している他、市窓口に行った時、「何かこちらに意見が届いていませんか」と聞くようにしている。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りの御輿に、ホームに寄ってもらうようにしており、その時は、近所の方にも来ていただき、一緒に楽しんでいただいている。入居者毎にそれぞれ地元の敬老会にご参加いただいたり、ホームで行う敬老会に、地域の老人会の方に来ていただいたりしている。小・中・高校との交流も行っている。ホームとして町内会に入っており、職員のみではあるが、年1~2回の清掃にも参加している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成14年のホーム開設時に、法人代表が、自身の思いを含め、「思いやりの心でまごころの介護」という理念を作った。理念には、より細かい内容を示した前文が付けられており、その中に「地域社会から分離されず」という文言があり、また、「自分のできる事は自分で一生懸命していただく」という中に、自宅で生活されていた時の役割や習慣の継続を図る姿勢を盛り込んでいるとのこと。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内の職員が目にしやすい場所に掲示しており、会議や日々の現場で、「入居者の立場にたって考える」「自分がされて嫌なことはしない、されて嬉しいことをする」等、具体的な形で話もされているため、全職員が理解し、実践に努めている。ホームの名前自体が、理念に謳われている「まごころ」であり、職員は常に理念を意識してケアを行っている。採用面接の時から理念を話しており、新規職員にも、「まごころをもって接すれば、入居者に伝わります」と話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りの御輿に、ホームに寄ってもらうようにしており、その時は、近所の方にも来ていただき、一緒に楽しんでいただいている。入居者毎にそれぞれ地元の敬老会にご参加いただいたり、ホームで行う敬老会に、地域の老人会の方に来ていただいたりしている。小・中・高校との交流も行っている。ホームとして町内会に入っており、職員のみではあるが、年1~2回の清掃にも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・管理者・職員ともに、評価の意義を理解しており、積極的に取り組んでいる。前回の外部評価後には、職員参加の下で会議を開いて話し合いを行い、「改善計画」を作成した。今回の自己評価も、職員と話し合いをしながら進めた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者に積極的に会議に参加していただけるよう、会議で取り上げて欲しい内容の要望をお聞きしている。地域の他グループホームと交流を行ってはどうかとの意見に基づき、他法人のグループホームと合同で花見大会を行った。また、家族から「日時を教えてもらえれば避難訓練のお手伝いに来ます」とおっしゃっていたので、次回の訓練時には案内させていただく予定にしている。前回の外部評価・今回の自己評価ともに、結果を会議で報告している。	○	これまでは、「会議」という名称から、少し固く考え、入居者の参加についても、難しいと判断していたとのことだが、会議を「認知症の理解」「入居者が地域の方と接する場」と位置づけることも良いと思われる。出席者の出迎え、お茶出し等、無理のない形で入居者の参加の方法も検討できそうだと、ホームからも意見が挙がり、今後の更なる取り組みが期待される。「家族・地域の方に、最新の介護情報を提供する場」と考え、市職員の協力も得て、権利擁護や高齢者の健康について、話をしてもらうのも良いと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員が参加する会議・研修会に参加して情報提供を行う一方、市側からも、防災について、助言をいただいたとのこと。町合併前は、町職員も参加する会議や催しが地元で開かれる機会が多く、職員が参加することもできたが、合併後はそのような機会が減り、市との連携強化に苦慮している部分もあるとのこと。	○	地区で老人会等の集まりは現在も行われており、その場に市の職員も出席することもあると思われ、今後、より積極的にそれらの会議に管理者が参加し、地域とのつながりを強めるとともに、市職員と顔を合わせ、話をする機会を増やしていきたいとの声が聞かれ、更なる充実が期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	基本的に、利用料の支払いは振込みでなく、お持ちいただくようにしているので、ほぼ全家族が月1回来訪されており、その際、暮らしぶりや健康状態についてお伝えしている。金銭管理についても毎月報告しており、新しい職員が入った時も、来訪時、報告・紹介をしている。現在は、ほぼ全家族に対し、毎月自宅訪問をしており、日々の記録を持参して様子をお話している。家族によって知りたいと思われる内容に違いがあることも意識して、報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時、自宅訪問時、運営推進会議の席等で、意見や要望をお聞きしている。いろいろな家族から意見をお聞きできるよう、運営推進会議の“家族代表”の委員を固定化せず、開催毎に全家族にお知らせし、ご都合のいい方にご参加いただくようにしている。これまで家族から苦情等をいただいたことはないが、ホームに言いにくいことがあるのではとの思いから、目安箱を設置している他、市窓口に行った時、「何か意見が届いていませんか」と聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームとしては、職員の勤務希望に極力応じ、個人面談を行って悩みを聞いたり、食事会を開く(時間差を設け、夜勤者も含めて全職員が参加できるようにしている)等、働きやすい環境づくりに努めている。原則ユニット間の異動は行ってないものの、この1年であった2名程の退職に伴い、ユニット間異動を数名行ったが、毎日のレクリエーションは合同で行っているため、入居者は他ユニットの職員にも馴染まれており、特に問題はなかった。その際も、引継ぎを細やかにを行い、入居者への影響を最小限にするよう努めた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、サービスの質の向上のためには職員の研修が大切であるとの思いから、会議と合わせて内部研修を行う他、県・市主催の研修会や事業者協議会の勉強会に職員を派遣している。どの研修に派遣するかは、職員のレベルを把握している管理者と話し合いをしている。個々の職員の指導についても、運営者として話すべきこと、管理者から注意を促すべきことと、内容によって役割分担をして進めている。	○	(外部評価項目No.10) 運営者・管理者は、職員それぞれに対し、長期的な視点での資格取得・養成の思いはあるものの、それを明確にすることが職員の負担になってはどの思いもあるとのこと。現在は、職員個別の計画の作成はしていないとのこと。毎年度最初に、職員自ら、目標・学びたいことを明記してもらい、受けた研修の記録を残していく事は、職員の意欲向上・計画的な研修受講に有意義と思われ、職員からも、「目標を明記して実行できなかつたら…との不安な気持ちはあるが、自身の励みにもなると思う」との声が聞かれたので、職員も含めて話し合いをし、“計画的な研修”の仕組み作りを検討してみたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の協議会、市の協議会に入っている。運営者は、同業者との交流の意義を認識しており、自ら市の協議会の役員を務める他、他事業所の行事に招かれ訪問している。研修会の合同開催・事例検討の他、様々な情報交換を行っている。職員レベルでの相互訪問・見学も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅に何度か訪問して顔馴染みの関係を作ったり、体験入居をしていただいたりしている。希望やそれまでの習慣を入居者自身・家族からお聞きし、その情報を、ホームに早く慣れていただくためのケアに活かしている。地元からの入居者が多く、運営者も地元出身であることから、新規入居者も、運営者・他入居者を知っている場合が多いとのこと。入居後、「自宅に帰りたい」旨の訴えがあった時は、家族に連絡をし、自宅にお連れするようにしており、無理のない形で少しずつホームに馴染んでいただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の方から意識的に声かけし、調理方法・裁縫・具合が悪い時に良い飲み物や食べ物・地域の昔話等を教えていただいている。何気ない会話の中で入居者に励ましていただいたり、人生訓をお聞かせいただくことも多く、一緒に笑い合う等、家族のような雰囲気中で、接せさせていただいているとのこと。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事につけ、問いかけの形で言葉かけをし、入居者の意思を確認するようにしている。アセスメントの用紙は、前回の外部評価での指摘も踏まえて独自に作成しており、入居者の言動の背景にある思いを推察するための生活歴・習慣といった情報収集をしている。介護計画の「目標」には、入居者自身の願いが明記され、それを実現するために必要なケア内容が計画に盛り込まれており、思いや意向を把握し、それに沿ったケアに努めていることがうかがわれる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の「目標」に、入居者自身の願いを明記し、それを実現するために必要なケア内容を、毎月のミーティングで全職員で話し合いをし、計画に記載している。家族の意見は月1回の自宅訪問時にお聞きしており、主治医等から健康面でいただいた助言も、計画に活かしている。ただし、地域での暮らしの継続を図った個別ケアについては、実際に行っているケアの一部分しか「介護計画」に記載されていないようであり、表現も、少し大括りになっている。	○	(外部評価項目No.15) 現在、「介護計画」には、入居者毎の一番強い思いを実現するためのケアの内容を書いているとのことだが、「介護計画」は、ケアの拠り所となる物であるため、原則、現在行われているケアは、「介護計画」に記載(別途、「個別介護手順書」を作成しても可)していくことが望まれる。 また、目標やケア内容に、アセスメントの充実により明確化された入居者の望みや好きなこと・過去の習慣を踏まえて、“いつ”“どこに”“どのくらい(時間・回数・距離等)”といったことを盛り込むと、職員にとって自身の行っているケアの目標や内容が明確になり、ケアが平準化されるとともに、モニタリングの時に、“目標が達成できたか”“ケア内容が計画通り行われたか”の評価が具体的に行え、次の目標設定・ケアの見直しが適切に行えるようになると思われる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直し・書き直しは、概ね3カ月単位で行っている。毎月のミーティングで、変化の兆しについての気づきや、ケアの変更の必要性の話し合いを、全利用者について行っており、月1回、「介護計画」「実施記録(入居者ごとの計画の「ケア内容」を明示し、毎日実施をチェック)」を持参して自宅訪問をし、家族に報告するとともに、ケアや計画について変更の希望がないか、お尋ねしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	お墓参り・お寺参り、自宅訪問、新しいショッピングセンターへの買い物、喫茶等、入居者の希望に合わせて、外出支援をしている。盆・正月に帰省される時の日程調整・準備等の支援もしている。急な状態変化の恐れがある入居者もおられるが、医療機関と充分連携をとることにより、入院せず、慣れた環境(ホーム)で療養していただいている。日中独居になられる地域の方を、一時期、ホーム側で送迎し、リビングで過ごして(遊びに来ていただいた)こともある。	○	運営者は、ホームの隣に、グループリビングの施設を建てる等、地域の独居高齢者への支援を目指しており、今後も、日中自宅で一人になられ不安があられる方には、ホームに遊びに来ていただく形で、ホームを活用していただきたいと考えているとのこと。ホームの存在・姿勢がより広く地域に周知され、交流が進み、ホームが地域の安心の拠り所となっていくことを期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、本人・家族が希望する医療機関を主治医として継続していただいております。通院介助も、特に家族が希望される場合以外は、ホームで行っている。受診の結果は、次回面会時(急ぎ伝えた方がよいことについては即時)に報告している。ホームとしては、全ての医療機関との細やかな情報共有に努めているが、ホーム側からみて更に密接な関係を築いていきたいと思われる医療機関もあるとのこと。	○	いつでも相談できる先として、協力医療機関も確保しているが、ホームとしては、各入居者の主治医とより密接な関係を築いていく取り組みを、今後も継続していきたいと考えているとのこと。入居者の「病院に行きたい」という思いと、「そんなに頻回に来なくても」という医療機関との判断の間で、対応に苦慮することもあるとのことだが、ホームとしては、入居者・家族の安心のためにも、今後も細やかな対応を続けながら、連携強化に努めていきたいとのこと、更なる充実を期待する。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしては、入居者・家族が希望される限りは、最後までお世話させていただきたいと考えているとのことだが、協力医療機関との24時間連携体制が確保できていないことから、ホームで看れる範囲に限界もあるため、入居の時点でその旨、お伝えしている。これまで、家族の希望により、かなり重度な状態までお世話させていただいたことがあり、その際は、家族・職員と繰り返し話し合いをしたとのこと。	○	これまで、入院3か月間、部屋を空けてお待ちしたこともあるとのこと、入居者・家族の「できる限り最期まで」という思いを叶えるため、ホームでできる最大の範囲で対応させていただくとともに、その範囲を広げるために、医療機関等を訪問し連携体制の構築を図ってきたが、まだ確保ができていないとのこと。今後も、ターミナルケアが実施できるよう、医療機関への働きかけを続け、入居者・家族に安心していただける体制作りに取り組みしていきたいとのこと、継続的な取り組み及びその成果を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者をお呼びする時は、尊敬の念をもって苗字でお呼びするようにしている。個人情報保護についても、書類の管理のルールを作り、徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで過ごしていただいている。自らの意思表示が少なめの方については、職員の方から声かけしたり、スキンシップをしたりして、コミュニケーションをとるようにしている。自宅訪問も含め、予定外の外出の希望にも、出来る限り対応しており、美容院は、本人の希望に合わせて予約をとってお連れしている。対応が難しい場合は、本人に納得いただけるよう、説明している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作り・下ごしらえ・配膳・下膳・食器の片付け等に参加いただいている。旬の物を献立に上らせたり、山菜を摘みに行ったり、郷土料理(みな味噌・キビナゴのいりやき等)を採り入れている。敢えて料理を大皿に盛って出したら、入居者に喜んでいただけ、また、焼肉をした時は、女性入居者が、男性入居者によそってさしあげる場面がみられ、いつもと違う場の設定が、入居者の生き生きとした様子につながったとのこと。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、13:00～16:00を入浴時間と決めているが、要望があれば柔軟に対応している。順番・湯温・入っている時間等、希望に合わせて個別に対応している。菖蒲湯・ゆず湯をしたり、時折、別ユニット・隣接施設の浴室に案内し、気分を変えて入浴を楽しんでいただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事(草むしり)、調理・掃除の手伝い、花の水遣り等、役割を持って、ホーム活動に参加いただいている。裁縫が得意な方には、雑巾を縫っていただいたり、クッションを作っていただいたりして、ホームで使わせていただいている。人形作りや折り紙での小物作りを積極的にされている入居者もおられ、ホームに来訪されたお客様や子供達にプレゼントしたり、地域の作品展に出品されたりしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの外出・外食の他、散歩・買い物・喫茶などの日常的な外出をしていただいている。多くの入居者が地元の方であることから、自宅訪問の他、希望に応じて、行きつけの店(美容院・洋品店等)、親族の家にお連れしたりもしている。入居前に習慣化されていた、年末の特定の酒屋での買い物を継続していただいている方、毎日曜に家族とのドライブを楽しまれている方もおられる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	敷地入り口、玄関、裏口、出入り可能なガラス戸のすべてについて、日中は施錠していない。職員間で声かけして見守りのスキができないようにしているが、入居者が一人で外出された時の協力依頼も地域に対して行っており、実際に連絡いただいたこともある。帰宅を促す職員の誘導を拒否される入居者に近所の方が声かけくださり、入居者が足を止め、気分を変えて、スムーズに戻っていただくきっかけになったこともあるとのこと。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年ごとに、消防署の協力を得ながら、入居者も参加いただき、避難訓練を行っている。災害時には、町内会長・地区の消防団にも連絡がいく通報システムを導入している。これまで避難訓練は、ホーム内で行うことしか考えていなかったとのことだが、運営推進会議で、家族から「手伝いますよ」という意見をいただいたことから、次回からは家族・地域に案内をする予定とのこと。水・毛布等は日頃より確保しているが、その他、特に災害時備蓄はしていない。	○	次回開催からは、地域・家族にお知らせし、参加・協力を得ていく予定とのことで、期待する。職員と話し合いをしたり、他グループホームと情報交換をし、災害時備蓄として何を備えると良いか検討し、順次、整備していくことも期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	書籍等を参考にし、実際に作った食事を写真にとって計算したカロリーを記載したり、主な副食のカロリーを載せた独自の資料を作り、1600Kcalの食事・20の水分の提供に努めている。水分については具体的な量の把握・記録まではしていないが、レクリエーション時、入浴後、睡眠前の足浴後等、コーヒーや日本茶等、希望をお聞きしながら勧め、充分摂っていただけるようにしている。食材・調理方法・盛り付けのしかたについての嗜好に合わせた個別対応もしている。	○	カロリー・栄養バランスへの配慮の次の段階として、栄養士資格を有する運営者の親族に、定期的に献立のチェックをしてもらうことを検討しているとのこと。期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・光・色について、刺激が強すぎることがないように配慮しながらも、生活感・季節感は感じられるようにしている。1ユニットの居間はかなり広めで、大きめの歩行器を使用されている方も何名かおられるので、敢えて観葉植物等は置かないようにしているとのことだが、木製の家具や各居室扉に掲げられた藍染の暖簾により、落ち着いた雰囲気を作られている。温湿度計を設置し、28℃を目安に、入居者にとって居心地良い環境作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームとして、居室ごとに、ベッド・寝具を用意しているが、使い慣れた物をお持ちになられている方もおられる。物入れ・タンスといった馴染みの家具、趣味の裁縫のための道具、作りかけの作品等が置かれ、それぞれ異なった雰囲気の居室になっている。物品がほとんど置かれていない部屋もあったが、居間で過ごすことを好まれている方とのことで、自室=寝室、共用空間(居間)=日中過ごす場として使われているようだとのこと。		